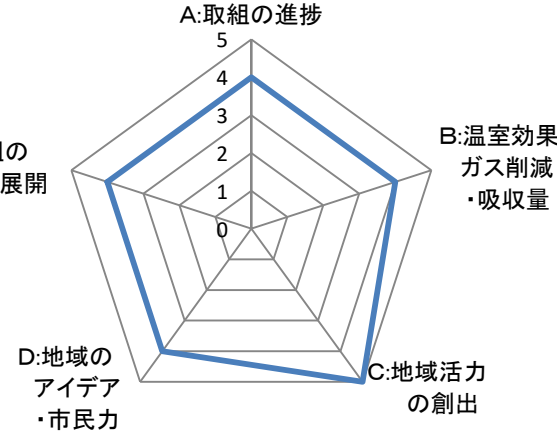


# 環境モデル都市における平成28年度の取組の評価結果

<h2>帯広市</h2>	人口:16.7万人、世帯数:8.6万世帯(平成29年3月末現在) 就業人口:7.9万人(平成27年度)、市内GDP:6,178億円(平成26年度) 面積:619.34km <sup>2</sup> (うち森林面積41.06万km <sup>2</sup> )
<h3>平成28年度の取組の総括</h3>	
<p>平成28年度のアクションプラン(帯広市環境モデル都市行動計画)に基づく排出削減・吸収量は、一部の取組で遅れがあるものの、概ね順調に推移している。また、帯広市内の温室効果ガス排出量については、前年度より減少している。</p> <p>地域活力の創出では、農業分野での削減が順調であり、家畜ふん尿由来のバイオガスから製造される水素を活用した「水素サプライチェーン実証事業」において、市内施設で水素エネルギーの活用が図られた。また、エコタウン内でバイオガスプラントが稼働した。</p> <p>取組の普及・展開では、幅広い世代の市民を対象とする出前環境講座やイベントの開催・参加、全戸へ配布される「省エネ啓発チラシ」などを通して市民の環境意識の向上を図ってきている。</p>	

## A : 取組の進捗

【参考指標】

4

計画との比較	評点	取組数	点数	評価指数	評価区分	
a)追加/前倒し/深掘り	2	10	20	算定式: ②/① *100	5	130~
b)ほぼ計画通り	1	42	42		4	110~
c)予定より遅れ/予定量に達せず	0	3	0		3	90~109
d)取り組んでいない	-1	0	0		2	70~89
計		① 55	② 62	113	1	~69

### (特記事項)

- ・2016年度(H28)の取組55件のうち、追加・前倒し・深掘りを行ったものが10件(約18%)、ほぼ計画通りに進捗したものが42件(約76%)であり、着実に各取組が進められている。
- ・飼料自給率の向上や、バイオマス利活用の推進などといった農業分野においてのCO<sub>2</sub>排出削減量が約6万t-CO<sub>2</sub>となっており、基幹産業である農業においてCO<sub>2</sub>排出量削減が進んでいる。
- ・家庭用及び産廃用廃食用油の回収が全市民的な取組になっており、回収量は180,519ℓとなった。公用車や市内路線バスでBDF燃料が利用されている。

## B : 温室効果ガスの削減・吸収量 【平成27年度】

【参考指標】

4

取組による効果	(t-CO <sub>2</sub> )	(前年度比)	温室効果ガスの排出量	(万t-CO <sub>2</sub> )	(前年度比)
温室効果ガス削減量	78,908	+16.3%	H27実績	143.7	△2.9%
温室効果ガス吸収量	73,720	△6%	H27実績(排出係数固定)	126.6	△2.8%

### (特記事項)

- ・温室効果ガスの排出量は、実排出係数で算出した場合、基準年2000年(H12)145.9万t-CO<sub>2</sub>に対し、2.2万t-CO<sub>2</sub>減少している。
- ・また、排出係数を基準年に固定した場合、126.6万t-CO<sub>2</sub>となり、基準年2000年(H12)145.9万t-CO<sub>2</sub>に対し19.3万t-CO<sub>2</sub>減少(約13.2%)している。
- ・削減量及び吸収量は、15.8万t-CO<sub>2</sub>の削減目標に対し15.3万t-CO<sub>2</sub>(達成率96.8%)であり、短期目標である2018年(H30)に向けて、順調に推移している。

## C：地域活力の創出

## 【参考指標】

5	スマートタウン六中事業	22区画建築完了	水素サプライチェーン実証事業	H27～H31
	省エネ高性能住宅の建築推進	交付金額:2000万円	HEMS導入補助	11件
	帯広の森・はぐくむ来館者	15,172人		
	エコフィードの利用促進	12,803t		
	家畜ふん尿堆肥の分析	施用面積:4,619ha		
	不(省)耕起栽培	835.6ha		
	バイオガスプラントの稼働			

## (特記事項)

- ・家畜ふん尿由来のバイオガスから水素を製造し活用する「水素サプライチェーン実証事業」において、帯広市内商業施設での水素エネルギー活用が始まった。
- ・旧第六中学校グラウンド跡地を利用し、ゼロ・エネルギー住宅や、環境配慮型住宅の建築を条件として造成した「スマートタウン六中事業」では、地域活性化と地球温暖化対策の推進が期待される。
- ・エコフィードの利用促進及び家畜ふん尿の堆肥施用により、飼料及び肥料輸送量、廃棄物処理の低減をはじめ、帯広市の農業基盤が強化されるとともに、約6万t-CO2が削減された。
- ・省エネ高性能住宅を建築する市民に対し、地域商品券20万円分を支給する事業を行い、地域内での消費喚起を促した。
- ・HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)導入補助を開始し、11件の補助を実施した。一般家庭における電力の見える化の推進に寄与した。
- ・エコタウン内に民間廃棄物事業者によるバイオガスプラントが稼働し、家畜ふん尿などの域内処理が可能となった。

## D：地域のアイデア・市民力

## 【参考指標】

4	環境にやさしい活動実践校	35校認定	市民ボランティアによる割り箸回収量	962kg
	家庭用廃食用油回収量	66,796ℓ	太陽光発電事業用普通財産貸付事業	貸付面積16,044.07㎡
	クリーンキャンパス・21参加人数	31団体3個人:3,500名		
	エコフレンズ登録者数	2,769名		
	資源回収総量	7,536t		
	資源回収団体	737団体		
	ノーカーデー実績	30,196km		

## (特記事項)

- ・環境にやさしい活動実践校の認定校が着実に増加しており、帯広市立学校41校中35校が認定された。学校内だけでなく、地域住民とも一体となった環境保全活動が実施されている。
- ・家庭用廃食用油の回収は全市民的な取組となっており、地域に定着している。BDF燃料で走行する市内路線バス内でも回収が行われていることにより、市民に取組の見える化が図られている。
- ・市民団体や町内会が回収した家庭用・業務用の使用済み割り箸962kgから木質ペレット燃料をつくり、学校や福祉センターなどで活用され、市民による自主的な資源循環の取組と、環境教育活動が行われている。

## E：取組の普及・展開

## 【参考指標】

4	出前環境講座開催回数	39回	タイヤ空気圧無料点検事業	
	出前環境講座参加人数	1,262名		
	ガイアナイトinおびひろ開催による普及効果	84,117名		
	とちかち・市民「環境交流会」参加人数	1,100名		
	環境学習会参加人数(3回開催)	56名		
	JICA研修受入	9名		
	省エネチラシ全戸配布	77,000枚		

## (特記事項)

- ・エコドライブ推進のため、タイヤ空気圧無料点検を地元スーパー、JAFと連携して実施した。
- ・環境をキーワードに学生やNPO、企業、行政による活動報告や情報交換、連携活動の場として、とちかち・市民「環境交流会」を開催し、十勝定住自立圏の取組を含め、24団体の出展、1,100名の来場者があった。
- ・出前環境講座を年39回開催し、延べ1,262名の幅広い世代の市民に環境意識の醸成を行った。
- ・省エネ啓発チラシを、全戸配布し、環境モデル都市の取組や地球温暖化防止への啓発を行った。

## (平成28年度の取組の評価する点とそれを踏まえた平成29年度以降に向けた課題)

飼料自給率の上昇、省エネ住宅、HEMS、再生可能エネルギー等の主要な取組は計画を上回るペースで進捗しており、高く評価できる。また、環境教育や市民参加による取組も活性化している。一方、家庭部門の排出量が増加していることについては、原因を分析して削減に向けて努力いただきたい。水素利用の取組については、採算性の検討が必要だが、今後の展開に期待する。